

# 豊穰の頂



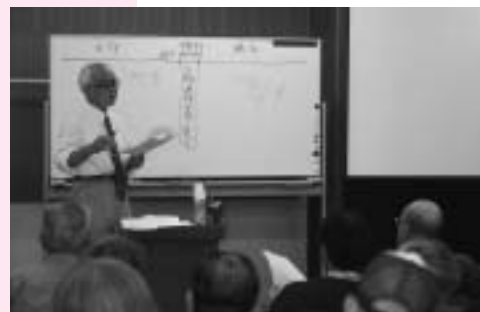
第5水門の背面で出土した土手状の遺構を見学する人々

この10年、文化財や観光、自然、住民活動など、折々に鬼ノ城からは多くの話題が発信されてきた。得られた実りを紹介し、次の実りを考える。

自然保護も念頭に置き、市や県により長年、発掘調査が行われてきました。西門の近くでは、第0水門や城壁に沿った敷石などが発見されました。その成果は復元に生かされ、築城当時に近い形を目の当たりにできるようになりまし。た。「遺構の残りがよいので、見る人も分かりやすいのでは」と、市文化課では

話します。城門や城壁などの大規模な古代山城の復元は、わが国では鬼ノ城が初めてのことで。私たちはこの姿を、後世まで末長く残していく努力をしていかなければなりません。それが、人々を鬼ノ城に引き付ける魅力となり、観光や文化面との連携の素地にもなると考えています。

**復元・整備したこの姿を後世まで末長く残していく努力が必要**



岡山県立博物館の特別展「鬼ノ城」の関連行事として行われた講演会で、「古代吉備最後のモニュメント」と題して講演する市埋蔵文化財学習の館の村上幸雄館長。鬼ノ城で行った発掘調査での話を披露しながら、日本や韓国の山城などについて紹介した

## 文化財

Kinojo

### ■鬼ノ城にふれて

岡山県は平成18年度から7年計画で城内を調査中で、これまでに建物跡や鍛冶工房跡、土手状の遺構、多数の土器などが出土しています。発掘を担当する古代吉備文化財センターでは、現地見学会や小学生を対象にした文化財体験教室を行ってきました。

また今秋、岡山県立博物館で開かれた特別展「鬼ノ城」では、その成果を一堂に展示。同展に合わせ、見学ツアー（上の写真）や講演会なども開催されました。「今後も、多くの人に鬼ノ城の魅力に触れてもらいたい」と、見学ツアーの案内役で同館の正木茂樹さんは話していました。



鬼ノ城を案内する吉備路ボランティア観光ガイド（右から2人目）

統計的には、年間約6万人が訪れている鬼ノ城。実際にはそれ以上の人が訪ねていると思われます。

多くの人が訪れる理由には、歴史のみならず、自然や健康など多様な楽しみ方のできる特異な空間である

ことが挙げられます。

吉備路ボランティア観光ガイドでは昨年度、1000人近くの観光客を案内しています。ガイドの一人の前野晃一さん（岡山市北区）は、「ハイキングや温羅伝説を楽しむ人、遺跡を勉強する人と、皆さんのさまざまですね。眼下の景色も魅力的で、ここ数年、訪れる人は増えました」と、教えてくれました。

この10年で大きく変わったのは、西門付近までのアクセス。こう配の緩やかな

遊歩道の整備や舗装、西門と角楼を正面から見られる学習デッキの完成などにより、見学しやすくなったことが、来場者の足を向かせています。

全国の歴史ファンの注目を集め、総社市の重要な観光資源の鬼ノ城。市観光協会の守安信吾会長は、「どうやって受け入れ、安全と安心を確保し、来てもらった人に喜んで帰ってもらうことや、鬼ノ城への足の確保はどうするか」を考えていると言います。



晴れれば瀬戸内海まで見ることができる

**自然、歴史、健康など多様な楽しみができるパワースポット**

## 観光

Kinojo

### ■パワースポット

今年3月にまとまった総社観光プロジェクトの報告書（下の写真）には、パワースポットという言葉が登場します。

パワースポットとは、元気が出たり、リラックスできたり、言葉では言い表せない不思議な力を感じることができる場所のこと。鬼ノ城をはじめ、総社市内の多くの歴史文化遺産は、まさにパワースポットといえるものです。



総社観光プロジェクト報告書